

2018～2019 年度 第 1 回 335 複合地区 ガバナー協議会 会議要録

- ◎ 日時および場所 2018 年 7 月 18 日（水）（ホテルモントレ姫路）
- |         |                  |      |
|---------|------------------|------|
| ガバナー協議会 | 14：00 ～ 16：30    |      |
| 懇 親 会   | 16：45 ～ 18：45    |      |
| 司 会     | 335-D 地区キャビネット幹事 | 山本益臣 |

- ◎ 開会ゴング・挨拶 335 複合地区ガバナー協議会議長 柿原勝彦  
335-B 地区前地区ガバナー

- ◎ 担当地区ガバナー挨拶 335 複合地区ガバナー協議会会計 小林 聡  
335-D 地区ガバナー

- ◎ 出席者紹介 335-D 地区キャビネット幹事 山本益臣

- ◎ 議事録署名人の選任 335 複合地区ガバナー協議会議長 柿原勝彦  
335-B 地区前地区ガバナー

第 1 回ガバナー協議会会議要録の署名人として、335-C 地区第 1 副地区ガバナー L 小鍛冶正明並びに 335-C 地区キャビネット幹事 L 梅山克啓が選任された。

- ◎ 報告事項(1) 議長報告 335 複合地区ガバナー協議会議長 柿原勝彦

1. 2017～2018 年度 次期ガバナー協議会議長引継ぎ会議 報告（別紙 1）  
資料に沿って報告があった。特記事項は下記の通り。

- グドラン国際会長公式訪問は、東日本が 9 月 3 日、西日本が 9 月 4 日。
- 8 月 3 日に名古屋にてアガワル LCIF 理事長の公式訪問が行われる。

2. 2018～2019 年度第 1 回議長連絡会議 報告

- 西日本豪雨災害に際し、議長会世話人である識名議長の「まずは現地を見るべき」との発言を受け、共に視察に赴いた。
- グドラン国際会長公式訪問
  - 西日本でのホストは MD335。伊丹空港での出迎えから万全の態勢で臨む。
  - 今回は一日のみの訪問であり、視察や観光などは行わない。
  - 公式訪問行事はすべてリーガロイヤルホテル大阪にて行う。
  - 登録者数割当は MD334 が 100 名、MD335 が 150 名、MD336 は 60 名（水害の影響を考慮）、MD337 は 90 名とする。
  - 議長や地区ガバナーとの懇談会では、各地区から活動報告を受けたいとの国際会長の意向がある。時間の制約もあるので内容を調整中。
  - 登録料は、公式訪問が 5,000 円、歓迎晩餐会は 12,000 円とする。

- 第 57 回 OSEAL フォーラムは海南島で開催される。日本からの参加者には 5 つのホテルが用意され、2,000 名の登録を依頼されている。交通手段の問題が心配されているが、中国政府がフライトを増便して対応するとのこと。
  - 国際理事立候補については、ローテーション制を廃止し、立候補の意思を持つ有資格者が OSEAL 執行委員会（OEC）宛に所信表明・履歴書を提出し、その後順次、地区、MD 年次大会推薦決議を得ることになる。
3. 2018～2019 年度複合地区ガバナー協議会及び委員会組織について（別紙 2）  
資料に沿って報告があった。
  4. 2018～2019 年度複合地区ガバナー協議会予算案について（別紙 3）  
資料に沿い本年度会計 L 小林聡から報告がなされ、承認された。また、資料への修正として、青少年育成費に 30 万円を追加することが提案され、承認された。
  5. 平成 30 年 7 月豪雨被災状況と LCIF 支援金について（資料 A）
    - LCIF 日本にて対策本部を立ち上げている。本日、名古屋にて第 1 回の会議が行われるので、LCIF コーディネーターの L 夏有民と共に出席する。
    - LCIF から MD335・MD336 に対し 30 万ドルが交付されている。MD335 内では各地区から 1 万ドルを LCIF に申請しており、これが承認されるのであれば、30 万ドルはすべて MD336 に使ってもらって良いのではないかと思っている。また、タイ国からは 7 万ドルの義捐金が届いている。合計で 37 万ドルの現金をどのように使っていくか、対策本部会議で話し合う。

以上が報告された後、335 複合地区ガバナー協議会議長 L 柿原勝彦並びに 335 複合地区 LCIF コーディネーター L 夏有民は、名古屋にて開催の西日本水害対策会議に出席するため、ガバナー協議会を退席した。

◎ 西川義規元国際理事挨拶

2014～2016 年の任期中、国際理事は liaison、advocate、steward、ambassador として地区と国際協会の橋渡し役を要請された。それに従い国際理事会のお知らせを報告する。

- ◆ 国際大会は、開催地の安全性や交通の便などを確認する必要がある。調査に十分な時間を取るため、かなり早くに決定している。
- ◆ 今年度の国際会長はグドラン・イングバドター、第 1 副会長はジュン・ユル・チョイ、第 2 副会長はヘインズ・タウンゼント、第 3 副会長はブライアン・シーハンである。この一年は女性の力が十分に発揮される年になるよう助力したい。

◎ 福井正憲元国際理事挨拶

- ◆ 西日本水害の報を受け、各位には金銭だけでなく労力面でも奉仕を期待している。
- ◆ 335-C 地区の L 永田賢司が国際理事に立候補することになった。ご支援をお願いします。
- ◆ 国際理事立候補のローテーション制度は国際会則違反だと言われるが、会則だけでは

うまく機能しない事態を補正するために申し合わされた制度である。これを否定するのであれば、OSEAL 内での各国のローテーションも否定されなければならない。国際理事立候補のローテーション制度は守るべきである。

- ◆ 国際役員には日本だけでなく世界のライオンズを運営する視点を持っていただきたい。
- ◆ 体調不良により退いた L 辻村泰善に代わり、L 小鍛冶正明が第 1 副地区ガバナーに就任した。堅実な人物であるので、各位からのご支持をお願いします。

#### ◎ LCIF ゴールドメダル贈呈

2017～2018 年度における 335 複合地区の LCIF への貢献を称えて、LCIF 理事長ボブ・コーリューからのゴールドメダルが、ガバナー協議会副議長 L 堀口清隆の手より 2017～2018 年度 335 複合地区ガバナー協議会議長 L 福田恵太に贈呈された。

#### ◎ 国際協会感謝状贈呈

以下に列記する各位に対し、2017～2018 年度の功績を称えて、国際協会からの感謝状が、2017～2018 年度議長 L 福田恵太の手より贈呈された。

- ◆ 2017～2018 年度 335 複合地区 GST コーディネーター L 団英男（糖尿病予防啓発における功績のため）
- ◆ 2017～2018 年度 335 複合地区 FWT コーディネーター L 笹部美千代（小児がん患者支援における功績、並びに飢餓対策における功績のため）
- ◆ 2017～2018 年度 335 複合地区 YCE・レオ委員長 L 吉田宏（YCE 事業における功績、並びにレオ事業における功績のため）

#### ◎ 報告事項

##### (2) 各地区ガバナーの抱負（別紙 4）

各地区ガバナーより以下の通りに抱負が述べられた。

A 地区：昨年度末 33 名の会員減により期首会員数は 2,022 名となった。地区全体で危機感を共有し、2,000 人を切らないよう努力する。LCIF キャンペーン 100 をどう進めるかなど課題は山積みだが、西日本水害被災への対応で他がストップしてしまっている状態である。複合地区アラート委員長 L 坂本のフェイスブック上で被災地の状況を読み、心を痛めている。通常の地区運営は進めていく一方で、並行して緊急援助を行い、そしてそれに続く復興支援も行っていきたい。力を合わせてライオンの仲間を助けていく。

B 地区：昨年度末 157 名の純増により、会員数 6,514 名、うち家族会員 1,530 名となり、日本一に返り咲いた。柿原前地区ガバナー、会員増強委員会にお礼を申し上げる。今期はスローガンを「全ては “We Serve” の為に 変革にチャレンジ、そして前へ！」とした。同時に国際会長方針「地平線の彼方へ」の徹底を図る。GST では糖尿病啓発と献血に重点を置き、奉仕受益者数 5 万人を

目指す。GLT ではメンバー2,000 名に指導力育成教育を行う。各クラブにて55 歳以下の「ニューホープメンバー」を選定してもらい、300 名の人材発掘を計画。GMT では昨年度に続き新会員 1,000 名に挑戦し、退会率は現在の10%から 5%未満に落としたい。LCIF では会員全員 100 ドル献金の 50 万ドルに加え MJF300 口で、合計 80 万ドルを目標とする。

C 地区：ガバナーテーマは「すべてに感謝、楽しく We Serve」。家族、仕事、環境に恵まれてこそライオンズで奉仕できる。また、奉仕は義務ではなく楽しみとしたい。アクティビティスローガンは「奉仕と友愛の輪で新たな挑戦！」。世界最大の奉仕団体である誇りを持って活動したい。GMT では、会員数が地区のパワーであるとし、会員各自一人ずつ増強する Ask1 をモットーとする。GST では糖尿病予防啓発に注力する。糖尿病を持つ会員は自分を例に一般社会に糖尿病の怖さを訴えることができる。環境保全では琵琶湖を中心に活動する。LCIF では会員一人につき必ず 50 ドルは献金をとお願いする。また、C 地区から国際理事候補者が出るのでご支援をお願いする。

D 地区：71 名減にて 1,882 名。「増やそう仲間、減らそう退会」をモットーに再挑戦する。男性しか入会できないクラブであっても、女性支部を作ることで女性会員増強に協力できる。各ゾーンに女性支部を作り、2,000 名を超えたい。GST は糖尿病に絞る。11 月 10 日の糖尿病イベントには全クラブに参加要請している。医師や製薬会社の協力も得ており、ライオンズの PR とするため神戸新聞の一面に記事を掲載する予定。各クラブの連絡先を載せて増強にも繋げたい。退会防止策として同期会を奨励している。LCIF ではキャンペーン 100 として一人 100 ドル、MJF はキャビネット役員全員をお願いしている。

### (3) 複合地区・全日本 各エリアリーダー・コーディネーター・委員長の抱負

#### 1. GLT 日本エリアリーダー（L 城阪勝喜）（別紙 5）

今年度 DGE セミナーは 2019 年 2 月 12 日～14 日にシカゴで 3 日間、7 月 5 日にミラノで 1 日のみ開催される。2 月の開催となったのは、次期国際会長方針の発表が 6 月や 7 月では、DGE が自分の次年度方針に取り入れて発表できないとの声が多いためである。ラスベガス国際大会の最中に第 1 副会長 L チョイから、2019 年の DGE セミナーのグループリーダーに指名された。今年度もよろしく願います。

#### 2. GST 西日本エリアリーダー（L 中村 猛）

2 年目となり、複合、地区、クラブの委員会へと GST 組織が固まりつつある。糖尿病は国際協会の最重要課題であり、日本 GST は冊子「丸ごとわかる糖尿病」を 3 万部発行し各クラブに配布する予定。印刷費用は LCIF から支援をいただける。この冊子を糖尿病対策の必携として一般市民にも活用してもらいたい。厚労省からも働き方改革の一環として、糖尿病を抱えながら働いていける社会を目指し協力を要請されている。11 月 14 日の世界糖尿病デーの参加団体にライオンズクラブも入って

いる。また、小児がん患者支援では、淀川キリスト教病院の専門医と話し合い、セミナー等の共催を企画している。

3. FWT 西日本エリアリーダー (L 高橋かず子)

引き続き小児がんの子供たちのためヘッドネーションに取り組む。また、支部作り、家族会員増強、20名以下の少人数クラブの底上げなど、GATと連携して活動する。

4. LCIF キャンペーン副エリアリーダー (L 北畑英樹)

MD334とMD335を担当する。昨年度にMD335全クラブがLCIF献金を行ったこと、全地区がほぼ目標額を達成したことに感謝する。今年度からキャンペーン100が始まる。今年度の地区ガバナーの目標から、MD335で合計200万ドルの献金が見込まれる。220万ドルを理想として、一人が一人に呼びかけるAsk1で頑張っていたきたい。西日本水害被災地にもLCIFが支援している。LCIFの支援を受けた地区は、LCIFの意義を感じ取ってくれるからか、その後のLCIF献金額が上がっている。また、335複合地区LCIFコーディネーターL夏が退席したので代わってお伝えするが、10月22日にホテル日航大阪にて335複合地区LCIFセミナーが開催される。

5. GST コーディネーター・GST 委員長 (L 団 英男)

今期、各地区のガバナーが糖尿病予防啓発に非常に協力的であることがわかり、頼もしく感じている。11月に335-D地区で開催される糖尿病2-DAYマーチではライオンズクラブのPRも心がけ、糖尿病予防啓発に取り組みたい。「丸ごとわかる糖尿病」の冊子が近々配布されるので、こちらでも有効に使っていただきたい。

6. GLT コーディネーター・GLT 委員長 (L 川野浩史)

上級リーダーシップ研究会 (ALLI)	10/12-14	名古屋	第2副地区ガバナー
複合地区研修	11~12月	各MD	第1・第2副地区ガバナー
講師育成研究会 (FDI)	2/23-25*	台北	元地区ガバナー 各MDから1~2名
ライオンズ認定講師プログラム (LCIP)	3/28-31	ソウル	FDI修了者 各MDから1~2名
全日本次世代リーダーシップセミナー	4/3-5	名古屋	各地区男女1名ずつ
芽生えるリーダーシップ研究会 (ELLI)	5/11-13*	名古屋	クラブ会長を目指す会員 各MDから3名

この他、2月には335複合地区次世代リーダー育成セミナーを開催する。

\* 日程に変更が入ったため、協議会で報告された日程とは異なる

7. GMT コーディネーター・GMT 委員長 (L 児玉保次)

Ask1で頑張っていきたい。今期のGMT目標は、335複合地区全体で1,600名余り

の入会である。純増はその半分くらいになるかと思っている。8月には大阪で FWT と合同で会員増強のセミナーを開催するのでご協力いただきたい。

8. FWT コーディネーター（正）・FWT 委員長（L 笹部美千代）

FWT は 2015 年に、家族会員・女性会員の増強、女性のリーダーシップ育成、女性の感性を活かした奉仕活動の創造と拡大を使命として出発した。女性を中心とした支部作りも加わり、今では全国で 80 の支部がある。MD335 では 14 支部に 98 名と言う実績である。いかに女性と若者を取り込むかをキーとして家族会員増強と支部作りを推進している。今年度はクラブ活性化計画にも取り組む。女性会員の割合は 2020 年に 36%となるよう目標設定している。今期は前期に引き続き 30%を目標とする。ライオンズに女性が入会を許可されてから 31 年目となる今年度、101 年目にして初の女性会長が誕生した。女性リーダーが生まれる土壌を作りたい。

9. 複合地区会計監査委員（L 小林 寛）

大先輩である L 奥村について教わりながら一つ一つ数字を追っていきたい。

10. 国際理事候補者選挙管理委員（L 福田恵太）

今年度は MD333 と MD336 が 1 名ずつ候補者を立てている。ローテーション制を採用する最終年度だが、他 MD から立候補しても障害はしないことになっている。翌年が MD335 からの立候補であり、シンガポール国際大会での就任を目指す。

11. ライオン誌日本語版委員（L 神崎 守）

ライオン誌は、少ない予算の中から多額の費用をいただいて作っているのだから、会員に読んでもらわなくては甲斐がない。冊子は 2 ヶ月ごとに発行し、ウェブでは毎月更新している。ウェブが苦手な方もいらっしゃるが、若い会員が先輩を助けてウェブを楽しんでいただき、一人でも多くの会員に読んでいただきたい。

12. 複合地区会計監査委員（L 奥村啓二）

予算案の変更を再確認させていただく。予備費から青少年育成費に 30 万円が移動し、予備費が 17,639,843 円となる。この数字を基にして一年間の監査を行う。

13. 会則委員長（L 三宮秀介）

昨年度はクラブ会則が大幅に変更され、クラブへの周知徹底に労力を割いた。社団法人日本ライオンズの定款と複合地区会則との整合性について委員長連絡会議で話し合い、各 MD でも検討していただき、その意見もまとめた上で議長会に上程したが、何の反応もいただかず、会則委員長連絡会議が勝手に話しているだけとなってしまった。今年度で社団法人は 3 年目になるが未だに議長会との棲み分けが曖昧であり、不安定なまま運営されていくのではと懸念している。地区ガバナーは社団法人社員

なので、定款をよく読んで理解し、適宜ご発言をお願いします。理事である柿原議長、福田前議長もしっかりと発言していただきたい。

14. 国際関係委員長（L 江草長史）

11月15日～18日に中国・海南島で OSEAL フォーラムが行われる。中国は国柄として制約が多い。7月24日の委員長連絡会議で詳しく話を聞き、複合に持ち帰って発表したい。また、今年度は3月に台湾300複合区との国際姉妹提携締結39周年記念行事として訪台するので、各地区のご協力をお願いします。

15. MC・IT委員長（L 永田賢司）

先輩方にも話を聞きながら、新しい企画もできればと思っている。また、一昨年度に発足した薬物乱用防止委員会が2年のみ活動して結局廃止されたが、これでは複合地区に合わせて組織編成を行ったクラブに混乱を招いてしまう。今後も色々な委員会が出来ると思うが、先見性を持って動いてほしい。

16. 献血・視聴覚委員長（L 瀧北美智子）

高齢化社会となり、大きな病院も増え、献血の重要性が叫ばれている。去年よりも少しでも確保料を増やしたいと思っている。

17. ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員長（L 足達靖彦）

ライオンズクエストプログラムの運営が物議を醸しているが、一部の情報だけが広がり、深い理解をいただけていない点を反省している。他の団体が作ったプログラムの著作権を2002年に LCIF が購入したのがライオンズクエストである。どこが担当・管理しているのかなどを知っていないと、批判も表面的なものになってしまう。各地区委員長と勉強し直して、LCIF からの交付金がどのように執行されているか等、専門的な部分を解説しつつ、普及に努めたい

18. レオ委員長（L 吉田 宏）（別紙6）

8月24日～26日に西日本水害被災地である愛媛県西予市にレオを派遣する。詳細は資料を参照されたい。

※ 予算に関し、30万円の不足金を複合地区が補填するよう柿原議長並びに4地区ガバナーが承認している旨を、ガバナー協議会副議長 L 堀口清隆が補足説明した。

19. 一般社団法人日本ライオンズ監査委員（L 中村房雄）

特に報告はない。

20. YCE 委員長（L 植谷晃一）

日本は外国の学生に人気が高いが、日本からの派遣生は緩やかに減少している。特に

男性の減少が著しく、今では男女比が3:7となっている。ノンライオンにも間口を広げて派遣生を募っていただきたい。また、派遣先のうちアメリカ中西部やオーストラリアでは、受け入れ家庭を見つけるのが非常に困難になってきている。一方で台湾は日本からの派遣生を受け入れたいと希望している。20日間で15万円と金銭的にも負担が少ない。ぜひ派遣先として台湾を候補に入れていただきたい。

21. アラート・環境保全委員長（L坂本恵市）

7月13日～15日に、議長会世話人・MD337議長L識名並びにMD335議長L柿原に同行して、平成30年7月豪雨災害の最大の被災地であるMD336、倉敷市の真備地区を訪問した。

1日目はまず倉敷市のボランティアセンターで情報収集した。336-B地区の第2副地区ガバナーからの強い要請を受け、被災地区である5Rにて会談を持った。336-B地区は現在、地区ガバナーは病氣療養中で、第1副地区ガバナーは被災した真備LC所属であり、キャビネットが機能していない。

2日目には識名議長、柿原議長と共に倉敷のボランティアセンターを訪問。酷暑のためセンターでも倒れる人が続出している。AEDなど高額な機材も不足しているが、幸い、AEDを2台寄付すると申し出てくれたクラブがあった。

真備LCはメンバーの9割が自宅も職場も失い、生活の手立てがない。第1副地区ガバナーも、支えを必要としている家族を残してライオンズの会議に出席するという極限状態に置かれている。退会や解散を防ぐべく全面支援が検討されている。

アラート委員会を設置しているMD・準地区は非常に少ない。MDレベルではMD335を含め2MDのみである。日本は災害大国なのだから、各MD・地区・クラブにアラート委員会を作り、全国を網羅するネットワークを構築することが必要と考える。

今期、各地区から出向してくれているアラート委員、環境保全委員と共に、一年間頑張っていくので、各位のご協力をお願いする。

22. 第65回年次大会委員長（L奥本耕三）

335複合地区第65回年次大会を2019年5月26日（日）にホテルニューオータニ大阪にて開催する。多くの方々のご出席いただきたく、よろしく願いする。

23. ガバナー協議会事務局管理委員長（L井出義晴）

一年間、しっかりと勤めていくのでよろしく願いする。

24. FWTコーディネーター（副）・FWT副委員長（L濱本嘉代子）

各地区のコーディネーター兼委員長と知恵を出し合い、L笹部を中心に、目標達成のために頑張っていく。ご協力をお願いする。



